

土壌塩分および用水塩分が定植後の イチゴ生育に及ぼす影響

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

野菜 - イチゴ - 生理・生態

2 担当者

斎藤幸平・渡邊仁司・常盤秀夫

3 要旨

東北地方太平洋沖大地震の津波による被害を受けたイチゴ圃場において除塩後に作付けしたところ、土を付けずに定植した苗にのみ生育障害(葉枯れ)が見られた。そこで、土壌や用水の塩分と、定植苗の土の有無がイチゴ生育に与える影響について検討した。定植後の葉枯れを防ぐためには、定植時の土壌 EC を 0.2mS/cm 以下にすることが必要であると考えられた。また、ポット育苗した苗を土無しで定植した場合、土壌 EC、用水 EC が高くなるほど葉身長が短くなる傾向が見られた。土壌 EC、用水 EC が高い場合、ポット育苗した苗を土付きで定植することにより葉枯れの発生、生育の悪化を低減できると考えられた。

(1) 供試品種は「とちおとめ」

(2) 育苗は 10.5cm 黒ポリポットを使用、育苗培土は「いちご専用培土育苗 1 号」。

(3) 土壌 EC 0.4mS/cm では約 6 割の株で葉枯れがみられたが、土壌 EC 0.2mS/cm では葉枯れは見られなかった(表 1)。

(4) 土壌 EC 0.4mS/cm の場合、土付きで定植した株は土無しで定植した株に比べ葉枯れは少なかった(図 1)。

(5) 定植後の灌水は現地と同様に、EC 0.2 、 0.4 、 0.6mS/cm の用水を用いた。土無しで定植した場合、土壌 EC、用水 EC が高くなるほど葉身長が短くなる傾向が見られた(図 2)。

表1 土壌ECの違いによる葉枯れ発生率

土壌 EC (mS/cm)	葉枯れが見られた株(%)
0.2	0
0.4	59.3

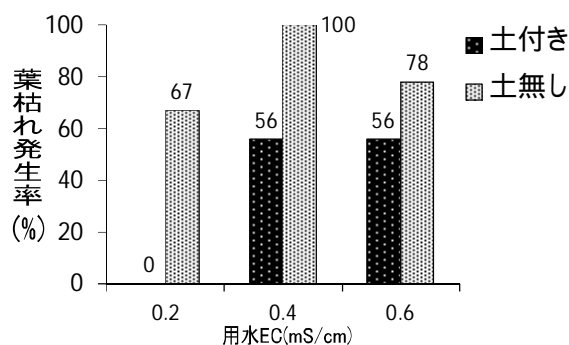


図1 EC0.4の土壌における用水EC別葉枯れ発生率

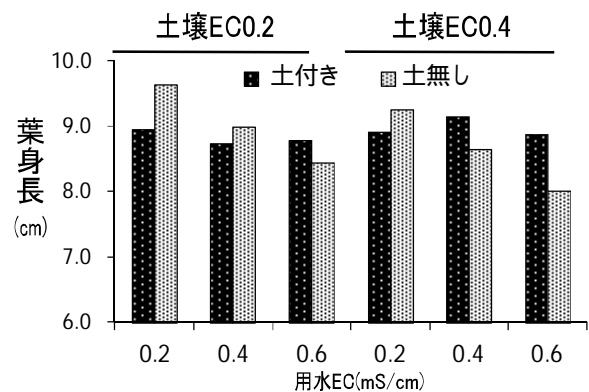


図2 定植1ヶ月後の葉身長

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成 23 年度～24 年度

(2) 研究課題名 除塩対策が作物の生育に与える影響

(3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

(1) 平成 23 年度～24 年度センター試験成績概要